

主要なリスクと対応策

2020年度に当社が有価証券報告書に記載した主要なリスクは、18項目となります。

その中でも、以下の6項目は特にインパクトが大ききリスクと判断しています。

これら以外にも当社特有のリスクや新興リスクも特定しています。

| リスク要因 | リスクの概要 | 対応策 |
|----------------------|--|---|
| 新製品の開発 | <ul style="list-style-type: none"> ● 長期かつ多額の研究開発投資が独創的な新薬の上市にいたらず、途中で開発を断念 | <ul style="list-style-type: none"> ● 研究領域の重点化による自社創業への取り組み体制の強化 ● 世界最先端の技術や知見を取り入れ、新薬開発のスピードと成功確率を高めるためのオープンイノベーションの推進 |
| 市場環境の変化 | <ul style="list-style-type: none"> ● 競合品や後発品の販売状況による製品競争力の低下 | <ul style="list-style-type: none"> ● 積極的な研究開発活動、全社を横断する迅速な部門間連携による製品価値の最大化 ● 研究開発を含め、製品ステージごとに競争優位性を担保しうる戦略の見直し ● 製品のポテンシャルを最大限引き出すためのリソースの担保 |
| コンプライアンス | <ul style="list-style-type: none"> ● 当社グループおよび委託先等が重大な法令違反を起こした場合の信用の低下 ● 法規制の変更などによる事業活動の制限およびその対応のための投資の発生 | <ul style="list-style-type: none"> ● 「小野薬品行動規範」に基づくコンプライアンス体系の整備と実践 ● コンプライアンス推進体制の強化 ● 事業活動に関連する法規制の遵守の徹底 |
| 製品の品質管理 | <ul style="list-style-type: none"> ● 重大な品質トラブルまたは新たな科学的知見により製品の安全・安心に対する懸念等が発生した場合、当該製品のブランド価値低下および当社グループ全体の信用の低下 | <ul style="list-style-type: none"> ● 当社の品質マニュアルに基づく品質システムの確立と継続的な改善 ● 製品の品質、有効性、安全性に懸念がある場合、速やかに対応するための体制の整備 |
| 人財の確保・育成 | <ul style="list-style-type: none"> ● 中長期的に多様で優秀な人財が確保・育成できない場合の事業活動の停滞 | <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な働き方ができる支援制度や職場環境の整備 ● 個々の成長や能力に沿った研修制度の充実 ● 多様性の向上(女性活躍推進、障がい者活躍推進、キャリア採用推進) |
| 大規模地震や気候変動に伴う自然災害・事故 | <ul style="list-style-type: none"> ● 大規模地震や気候変動に伴う自然災害、生産工場の爆発・火災事故、情報・制御システムの障害、原材料購入先のトラブル、電力や水等の社会インフラの機能不全、有害物質による環境汚染、テロ、政変、暴動等の発生による事業活動の停滞 | <ul style="list-style-type: none"> ● 生産工場および主要な事業拠点を対象とした災害対策、事業継続計画(BCP)の策定とトレーニング ● TCFDの提言に基づく気候変動リスクへの対応 ● 2拠点体制の整備、「安否確認システム」の導入、定期的な災害訓練の実施などによる有事対応力の強化 |

上記の表には、有価証券報告書に記載した主要なリスクの一部を記載しています。詳細については、以下の「有価証券報告書」や当社のサステナビリティサイトをご参照ください。

https://www.ono.co.jp/sites/default/files/ja/ir/library/securities_report/ns_ver4_210618.pdf